

予防接種のお知らせ

このお知らせをよく読んでから
早めに接種してください。

接種費用 無料 **接種場所** 市内指定医療機関(要予約) **接種期間** 接種券に記載 **持ち物** 接種券、母子健康手帳

※市外へ転出した場合は同封の接種券が使用できません。

※市外の医療機関で接種を希望する場合は、**事前に**市健康推進課までご連絡ください(県外の医療機関で接種を希望する場合は別途手続きが必要です)。

※長期療養を必要とする疾患(国で定められています)にかかり、期間内に接種を受けられない場合は健康推進課までご相談ください。



《予防接種を受けに行く前に》

注意事項

予防接種は体調のよい時に受けるのが原則です。安全に予防接種が受けられるよう、保護者の方は以下のことに注意のうえ、当日に予防接種を受けるかどうか判断してください。

- ①当日は、朝からお子さんの状態をよく観察し、普段と変わったところがないことを確認しましょう。
- ②このお知らせをよく読んで、接種の必要性や副反応についてよく理解しましょう。わからないことは、接種を受ける前に接種医に相談しましょう。
- ③母子健康手帳は必ず持って行きましょう。
- ④予診票は、接種する医師への大切な情報です。責任を持って記入しましょう。
- ⑤予防接種を受けるお子さんの日頃の健康状態をよく知っている保護者の方が連れて行きましょう。

予防接種を受けることができないお子さん

- ①明らかに発熱(通常37.5℃以上)をしている
- ②重篤な急性疾患にかかっていることが明らかである
- ③その日に受ける予防接種の接種液に含まれる成分でアナフィラキシーを起こしたことがある
(「アナフィラキシー」とは通常接種後30分以内に起こるひどいアレルギー反応のことです。汗がたくさん出る、顔が急に腫れる、全身にひどいじんましんが出るほか、吐き気、嘔吐、声が出にくい、息が苦しいなどの症状やショック状態になるような、はげしい全身反応のことです)
- ④その他医師が不適当な状態と判断した場合

予防接種を受ける際に注意を要するお子さん

- ①心臓、腎臓、肝臓、血液の疾患や発育障害などの疾患がある
- ②過去に予防接種で、接種後2日以内に発熱がみられた、または発疹、じんましんなどアレルギーと思われる症状がみられた
- ③過去にけいれん(ひきつけ)を起こしたことがある
- ④過去に免疫不全の診断がなされている、または近親者に先天性免疫不全の方がいる
- ⑤ワクチンにはその製造過程における培養に使う卵の成分、抗菌薬、安定剤などが入っているものがあるので、これらにアレルギーがあるといわれたことがある

《接種後の注意》

一般的注意事項

- ①予防接種を受けた後30分間は、急な副反応が起こることがあります。医療機関でお子さんの様子を観察するか、医師とすぐ連絡をとれるようにしておきましょう。
- ②接種後、生ワクチン(MR、水痘、BCGなど)では4週間、不活化ワクチン(肺炎球菌、五種混合、B型肝炎など)では1週間は副反応の出現に注意しましょう。
- ③接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は差し支えありませんが、接種部位をこすらないようにしましょう。
- ④接種当日は、はげしい運動は避けましょう。
- ⑤接種後、接種部位の異常な反応や体調の変化があった場合は、速やかに医師の診察を受けましょう。

副反応が起こった場合

予防接種を受けた後、まれに重い副反応が起こることがあります。接種部位のひどい腫れ、高熱、けいれんなどの症状があったら、医師の診察を受けてください。

予防接種とは関係なく、接種と同じ時期にほかの感染症などがたまたま重なって何らかの症状が出ることもあります。

予防接種による健康被害救済制度について

定期的予防接種によって引き起こされた副反応により、生活に支障が出るような障害を残すなどの健康被害が生じた場合には、国の審査会にて審議し、予防接種によるものと認定された場合に、予防接種法に基づく給付を受けることができます。

健康被害の程度などに応じて、医療費、医療手当、障害児養育年金、障害年金死亡一時金、葬祭料の区分があり、法律で定められた金額が支給されます。死亡一時金、葬祭料以外については、治療が終了する又は障害が治癒する期間まで支給されます。

麻しん風しん混合(MR)ワクチン第I期【生ワクチン】

対象者：生後1歳～1歳11か月の者
接種回数：1回(第II期として年長にあたる年齢でもう1回接種します)
副反応：発熱、発疹、接種部位の赤み、腫れがみられることがあります。極めてまれに重い副反応としてアナフィラキシー、けいれん、血小板減少性紫斑病、脳炎などが起こる場合があります。

麻しん(はしか)

原因 空気中を漂う麻しんウイルスを口や鼻などから吸い込むことによって感染します。感染力が強く、予防接種を受けないと、多くの人がかかり、流行する可能性があります。

症状 高熱、せき、鼻汁、発疹などが出ます。最初3～4日間は38℃前後の熱で、一時おさまりかけたかと思うと、また、高熱と発疹が出て、数日で解熱します。次第に発疹も消失し、しばらく色素沈着が残ります。合併症として、気管支炎、肺炎、中耳炎、脳炎があります。

風しん

原因 風しんウイルスが含まれるせきやくしゃみのしぶきを直接吸い込むことによって感染します。

症状 軽いかぜ症状で始まり、発疹、発熱、後頸部リンパ節の腫れなどがみられます。予後は一般に良好ですが、血小板減少性紫斑病や脳炎を合併することもあります。大人になってからかかると重症になります。妊婦が妊娠20週頃までに風しんウイルスに感染すると、先天性風しん症候群と呼ばれる先天性の心臓病、白内障、聴力障害などの障害を持った子が生まれる可能性が非常に高くなります。

水痘ワクチン【生ワクチン】

対象者：生後1歳～2歳の者
接種回数：2回
副反応：時に発熱、発疹がみられ、まれに接種部位の赤み、腫れ、しこりがみられることがあります。また、極めてまれに重い副反応としてアナフィラキシー、血小板減少性紫斑病などがみられることがあります。
接種間隔：
①接種 ← 生後1歳～2歳11か月 (6～12か月) → ②接種

水痘

原因 水痘帯状疱疹ウイルスに直接接触したり、ウイルスを口や鼻などから吸い込んだりすることで感染します。

症状 特徴的な発疹が主な症状で、お腹や背中、顔、頭部などにあらわれます。発疹は赤い斑点状の盛り上がった湿疹から始まり、その後3～4日は水ぶくれとなり、最後はかさぶたを残して治ります。かゆみや発熱のほか、まれに脳炎や肺炎など伴うことがあります。感染力の強い感染症のひとつで、潜伏期間は2週間程度です。

日本脳炎ワクチン 第I期【不活化ワクチン】

対象者：生後6か月～7歳5か月の者
接種回数：3回
副反応：接種部位の赤み、発熱、せき、鼻水などがみられることがあります。極めてまれに重い副反応としてアナフィラキシー、急性散在性脳脊髄炎、けいれん、血小板減少性紫斑病、脳炎などが起こる場合があります。
接種間隔：
①接種 6～28日 ②接種 1年 ③接種
第I期初回 6～28日の間隔をあけて2回接種
第I期追加 初回2回目から1年の間隔をあけて1回接種

日本脳炎ワクチンは、標準的な接種期間が3歳からとなっているため、接種券は3歳になる月の月末に発送しています。それよりも前に接種を希望される場合は、健康推進課(保健センター内)へ母子健康手帳を持って来所してください。その場合、接種するワクチン量は通常の半分となります。

日本脳炎

原因 日本脳炎ウイルスがブタなどの体内で増え、蚊によってヒトに運ばれて感染します。ヒトからヒトへの感染はありません。

症状 多くの場合症状は出ませんが、感染者のうち100～1,000人に1人が発症します。高熱、頭痛、嘔吐、意識障害、けいれんなどの症状を示す急性脳炎になることがあり、死亡率は20～40%です。治った場合でも神経系の後遺症を残す人が多くいます。髄膜炎や夏かぜ様の症状で終わる人もいます。

異なる種類のワクチンを接種する場合の間隔について



※同一のワクチンを複数回接種する場合の接種間隔については、ワクチンによって異なります。

問い合わせ：〒921-8825 野々市市三納三丁目128番地 **TEL 076-248-3511**
野々市市健康福祉部健康推進課(保健センター内) **FAX 076-248-7771**

ロタウイルスワクチン【生ワクチン】

ワクチンの種類と対象年齢・接種回数		
ワクチン名	ロタリックス	ロタテック
対象者	生後6週0日から24週0日後までの者	生後6週0日から32週0日後までの者
接種回数・間隔	2回接種(27日以上の間隔をあける)	3回接種(27日以上の間隔をあける)
副反応：重い副反応としてアナフィラキシーが起こることがあります。また、1回目接種後1週間以内は、腸重積症を発症するリスクが上がります。周期的に不機嫌になる、嘔吐を繰り返す、はげしく泣く、血便が出るなど腸重積症を疑う症状が出た場合は、速やかに医療機関を受診してください。		
<p>※ワクチンは2種類あり接種回数は異なりますが、予防効果や安全性に差はありません。</p> <p>※最初に接種したワクチンを2回目以降も接種します。</p> <p>※標準的にはどちらのワクチンも、生後2か月から出生14週6日後までに1回目の接種をします。</p> <p>※以下に該当するお子さんは接種の対象とはなりません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去に腸重積症にかかったことがある ・先天性消化管障害がある(その治療が完了している場合を除く) ・重症複合免疫不全症の所見が認められる 		
<p>ロタウイルス胃腸炎</p> <p>原因 感染者の便に含まれるロタウイルスが口の中に入り、小腸の粘膜まで届いて感染が起こります。感染力が非常に強く、増殖したウイルスは便の中に排泄され、他の人にも感染していきます。</p> <p>症状 下痢、嘔吐、発熱などがみられ、ときに脱水、けいれん、肝機能異常、腎不全、まれに急性脳症等を合併することがあります。年齢にかかわらず何度でも感染発病しますが、乳児期での初感染が最も重症で、その後感染を繰り返すにつれて軽症化していきます。</p>		

B型肝炎ワクチン【不活化ワクチン】

対象者：1歳に至るまでの間の者 ※ただし、母子感染予防として、出生後にB型肝炎ワクチンの接種を受けた場合は、定期接種の対象になりません。	接種回数：3回	副反応：接種部位の痛み、腫れ、しこり、熱感、頭痛などがみられることがあります。極めてまれに重い副反応として、アナフィラキシーや急性散在性脳脊髄炎などが起こる場合があります。
<p>接種間隔：</p>		
<p>B型肝炎</p> <p>原因 B型肝炎ウイルスに感染した血液などに直接接触した場合などに感染します。</p> <p>症状 かせのような症状から始まり、黄疸や食欲不振など急性肝炎の症状が現れます。そのまま回復する場合もあれば、慢性肝炎となる場合もあります。また、症状としては明らかにならないままウイルスが肝臓内部に潜み、年月を経て慢性肝炎・肝硬変・肝がんなどになることがあります。</p>		

小児用肺炎球菌ワクチン【不活化ワクチン】

<p>ワクチンの種類と対象年齢・接種回数</p> <p>対象者：生後2か月～4歳の者</p> <p>接種回数：4回</p> <p>副反応：接種部位の赤み、腫れ、発熱などがみられることがあります。極めてまれに重い副反応としてアナフィラキシー、けいれん、血小板減少性紫斑病などがみられることがあります。</p>	<p>接種間隔：</p> <p>※ただし、接種開始年齢が生後7か月以上の場合、接種回数が異なります。詳細はお問い合わせください。</p>
<p>小児の肺炎球菌感染症</p> <p>原因 子どもの多くは鼻やのどに肺炎球菌を持っており、体が弱るなどした時に症状が出ます。</p> <p>症状 肺炎、細菌性髄膜炎や菌血症などが起こります。</p>	

五種混合(ジフテリア・百日せき・破傷風・不活化ポリオ・ヒブ)【不活化ワクチン】

ワクチンの種類と対象年齢・接種回数	
<p>対象者：生後2か月～7歳5か月の者</p> <p>接種回数：4回</p> <p>副反応：接種部位の赤み、腫れ、しこり、発熱、下痢、発疹、せき、食欲減退、嘔吐などがみられることがあります。極めてまれに重い副反応としてアナフィラキシー、けいれん、血小板減少性紫斑病、脳炎などがみられることがあります。</p>	<p>接種間隔：</p>
<p>ジフテリア</p> <p>原因 ジフテリア菌がせきなどにより空気中を飛んでいき、鼻や口などの粘膜から人に感染します。</p> <p>症状 高熱、のどの痛み、犬吠様のせき、嘔吐などがみられます。また、のどに偽膜と呼ばれる膜ができ窒息死することもあります。発病2～3週間後には菌の出す毒素によって心筋障害や神経麻痺を起こすことがあります。</p>	
<p>百日せき</p> <p>原因 百日せき菌がせきなどにより空気中を飛んでいき、鼻や口などの粘膜から人に感染します。</p> <p>症状 普通のかぜのような症状から始まり、せきがひどくなって、息を吸い込むときに笛を吹くような音が出るようになります。せきで呼吸ができず、チアノーゼやけいれんが起きたり、肺炎や脳症などの重い合併症を起こしたりしやすく、死亡することもあります。</p>	
<p>破傷風</p> <p>原因 土の中などにいる破傷風菌が、傷口から体内に入ることにより感染します。</p> <p>症状 口が開きにくい、あごが疲れるなどの症状から始まり、歩行や排尿・排便に支障をきたします。最後には全身の筋肉が固くなって体を弓のように反らせたり、息ができなくなったりし、死亡することもあります。</p>	
<p>ポリオ</p> <p>原因 ポリオウイルスが口に入り、のどや小腸の細胞で増殖することで感染します。増殖したウイルスは便の中に排泄され、他の人にも感染していきます。</p> <p>症状 ほとんどの場合症状は出ませんが、100人中5～10人は、かせのような症状、発熱、頭痛、嘔吐があらわれます。ウイルスが血液を通して脳や脊髄に広がり、1,000～2,000人に1人の割合で手足の麻痺が起こり、一部の人はその麻痺が一生残ります。</p>	
<p>ヒブ感染症</p> <p>原因 インフルエンザ菌b型を口や鼻などから吸い込むことで感染します。</p> <p>症状 肺炎、髄膜炎、菌血症、喉頭蓋炎などが起こります。</p>	

BCGワクチン【生ワクチン】

<p>対象者：1歳に至るまでの間の者 (標準的には生後5か月～8か月)</p> <p>※ただし、外傷などによるケロイドのあるお子さんは、接種を受けることができません。また、過去に結核患者との長期の接触があるお子さんまたは結核にかかっているお子さんが接種を受けるときは、医師にご相談ください。</p> <p>接種回数：1回</p> <p>接種方法：管針法というスタンプ方式で、上腕の2か所に押し付けて接種します。</p> <p>副反応：まれに接種をした側のわきの下のリンパ節が腫れることがあります。通常、放置して様子を見てかまいませんが、ただれたり、大きく腫れたり、化膿してうみが出た場合には医師に相談してください。極めてまれに重い副反応としてアナフィラキシー、骨炎、全身播種性BCG感染症などが起こる場合があります。</p>	<p>接種後の一般的経過：接種後10日ごろに接種部位に赤いポツポツができ、小さく化膿することがあります。この反応は接種後4週間頃に最も強くなりますが、その後はかさぶたができて接種後3か月までには治り、小さな傷跡が残るだけになります。自然に治るので、絆創膏を貼ったりせずそのまま清潔に保ってください。ただし、接種後3か月を過ぎても接種のあとがジクジクしているときは医師に相談してください。接種後10日以内に接種部位に赤みや腫れ、化膿等がみられた場合、接種を受けたお子さんもしくは周囲に結核感染者がいる可能性が考えられます。すぐに接種した医療機関にご連絡ください。</p>
<p>結核</p> <p>原因 結核感染者のせきやくしゃみと一緒に結核菌が空気中を漂い、それを他の人が吸い込むことで感染します。</p> <p>症状 日本では約8割が肺結核です。初期症状はかせに似ており、せきやたん、発熱などが長く続きます。体重減少や食欲不振などもみられ、さらにひどくなるとだるさ、息切れ、血痰などがみられます。乳幼児は抵抗力が弱いため、全身性の結核にかかったり、結核性髄膜炎になったりすることもあります。</p>	

予防接種スケジュールの例

この表は、それぞれの予防接種の標準的な接種時期の例を示しています。
実際に接種する予防接種とスケジュールについては、かかりつけ医と相談しましょう。

※ 丸囲み数字 (①、②など) は、ワクチンの種類毎に接種の回数を示しています。

※ ←→ は接種可能な年齢を示しています。数字 (①、②など) が書かれている年齢は、標準的な接種年齢です。

※ 麻しん風しん (MR) II期、日本脳炎、二種混合、HPVは標準的な接種年齢を迎える頃に郵送します。

種類	ワクチン	2か月	3か月	4か月	5か月	6〜8か月	9〜11か月	1歳0か月	1歳6か月	1歳11か月	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳0か月	7歳5か月	8歳	9歳	10歳以上	標準的な接種年齢と接種間隔	
定期接種	□タ (1価)	①	②																		生後6週〜24週までに2回接種。①は14週6日後までに接種。①〜②の間は27日以上あける	
	□タ (5価)	①	②	③																	生後6週〜32週までに3回接種。①は14週6日後までに接種。①〜②、②〜③の間は27日以上あける	
	B型肝炎	①	②		③																	①〜②の間は27日以上あける。③は①接種後139日以上あけて接種
	小児用肺炎球菌	①	②	③				④追加														①〜③の間はそれぞれ27日以上あける。④追加は③接種後60日以上の間隔をあけて1歳になったら接種
	五種混合	①	②	③				④追加														①〜③の間はそれぞれ20〜56日あける。④追加は③接種後12〜18か月の間隔で接種
	B C G				①																	生後5〜8か月で接種
	麻しん、風しん (MR I・II期)							① I期										② II期 (年長)				I期: 1歳になったら、できるだけ早めに接種 II期: 年長で接種
	水痘							①	②													①〜②の間は6〜12か月あけて接種
	日本脳炎 (I期・II期)													①②③追加 I期						④ II期 (9〜12歳)		①〜②の間隔は6〜28日あける。③追加は②接種後おおむね1年後に接種。④II期は9歳で接種
	二種混合 (DT)																				① II期 (11〜12歳)	11歳になったらできるだけ早めに接種
ヒトパピローマウイルス (HPV)																				①②③ 小6〜高1の女子	中1で接種。ワクチンの種類により接種間隔・回数が異なる	
任意接種	おたふくかぜ							①													②	1歳以上で接種
	インフルエンザ																					毎年秋(10〜11月頃)に1回または2回①② 2回接種の場合は、①〜②の間は4週あけるのが望ましい